

共同研究

共同研究（2022年4月1日～2023年3月31日）

〈大衆文化研究の展開〉

近代東アジア文化史の再構築Ⅰ — 19世紀の百年間を中心に

（研究代表者 劉建輝）

〔共同研究者名〕

井上章一、石川肇、磯田道史、森岡優紀、青木信夫、劉序楓、
戦暁梅、上垣外憲一、陳力衛、王宝平、小倉紀蔵、単援朝、陳
継東、仲万美子、松宮貴之、森田憲司、深尾葉子、太田梨紗子、
南誠、李偉、高橋博巳、村田雄二郎、岸陽子、安藤潤一郎、陳
捷、劉岸偉、平岡隆二、李長波、閻小妹、張競、伊藤謙、塚瀬
進、稲垣智恵、光平有希、新井菜穂子

〔海外共同研究員名〕

王中忱、唐権、孫江、孫建軍、王志松、徐蘇斌

〔研究発表〕

〈第6回研究会〉

2022年7月22日（オンライン同時開催）

(1)

閻小妹「唐通事による『忠臣蔵』の白話訳の利用と展開」

上垣外憲一「近代日中交流における五つの問題点—密貿易・鉱山
業・グレイゾーン・戦争・物流」

〈第7回研究会〉

2022年12月23日（オンライン同時開催）

森岡優紀「幕末における『海外新話』の流布」

高橋博巳「後期竹田にむけて—長崎の人々」

戦暁梅「富岡鉄斎の晩年藝術と京大中国学の人々」

〈第8回研究会〉

2023年3月18日（オンライン同時開催）

徐蘇斌「中国における建築学の誕生」

譚皓（ゲストスピーカー）「近代日本人中国留学史」

総合討論

文明としてのスポーツ／文化としてのスポーツ

（研究代表者 牛村圭）

〔共同研究者名〕

フレデリック・クレインス、劉建輝、田村美由紀、増田斎、井上章一、等松春夫、川島浩平、堀まどか、古田島洋介、藤田大誠、佐伯順子、佐々木浩雄、高嶋航、竹村民郎、永井久美子、吉江弘和、ジョン・グリーン、西山由理花、稲賀繁美、光平有希

〔海外共同研究員名〕

徐載坤、杉田智美

〈第9回研究会〉

2022年7月23日（オンライン開催）

高嶋航「スポーツからみる東アジア史—分断と連帯の二〇世紀」

〈第10回研究会〉

2022年11月27日（オンライン開催）

鋳物美佳（ゲストスピーカー）「型稽古の身体論—能楽の場合」

木村華織（ゲストスピーカー）「昭和戦前期における女子水泳の組織化」

〈第11回研究会〉

2023年2月12日（オンライン開催）

三輪記子（ゲストスピーカー）「スポーツとハラスメント」

(2) 新井博（ゲストスピーカー）「日本に紹介されたスキーの変容」

〈第12回研究会〉

2023年3月25日

次年度年度計画、今後の研究集会構想
成果論集執筆予定内容の報告

2023年3月26日

次年度年度計画、今後の研究集会構想
成果論集執筆予定内容の報告

接続する柳田國男

（研究代表者 大塚英志）

〔共同研究者名〕

佐野明子、室井康成、近藤和都、内田力、宮崎靖士、三ツ松誠、谷口雄太、辻本侑生、三宅彦大、ビョーン＝オーレ・カム、鶴見太郎、横田尚美、菊地暁、杉本仁、花田史彦、王琼海、藤岡洋、山本忠宏、山本浩貴、神松一三、伊藤慎吾、アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス

〈第1回研究会〉

2022年5月21日（オンライン開催）

山本 浩貴「方法としてのボディ——『明治大正史 世相篇』における
フィクショナルな人体と共同性のレイアウト」

室井 康成「「孤立貧」をどうするか——柳田国男がもっとも解きた
かった世相史的課題」

佐野 明子「「食物の個人自由」とデータサイエンス・映画研究の接
続について」

花田 史彦「柳田國男と佐藤忠男——『明治大正史 世相篇』の読まれ
方」

ビョーン＝オーレ・カム「柳田國男の「問題の共同」——温かいも
のからラーメンへ（男女食文化史）」

辻本 侑生「柳田国男をクィアに読む」

宮崎 靖士「『豆手帖から』における表現傾向の模索と、それがもち
得た同時代的意義について——『朝日新聞』連載テキストとし
ての『秋風帖』『海南小記』までを視野に入れて」

〈第2回研究会〉

2022年8月27日（オンライン同時開催）

三ツ松 誠「柳田は何を嘆いているか」

鶴見 太郎「代筆された章——『明治大正史世相篇』「第一章 労力
の配賦」を中心に」

内田 力「漁村を見る柳田国男」

神松 一三「柳田國男のメディア観（ラジオ）」

谷口 雄太「柳田国男と「都鄙雅俗」——近年の日本中世史研究の立
場から」

2022年8月28日（オンライン同時開催）

伊藤 慎吾「伝承文学の研究史と今後」

大塚 英志「重出立証法の「方法的」前提」

三宅 彦大「歴史地理学からみた柳田国男」

〈第3回研究会〉

2022年11月26日（オンライン開催）

杉本 仁「『世相篇』と「一等むづかしい宿題」」

神松 一三「柳田國男とNHK放送文化研究所「音のライブラリー」」

アルバロ・ダビド・エルナンデス・エルナンデス「柳田國男の民俗
学とメキシコ人類学 同時代の視座」

(3)

〈第4回研究会〉

2023年2月4日（オンライン開催）

横田 尚美「平凡な衣食住を歴史として考えるとは？—『明治大正史世相篇』第1章に見る柳田の衣と布と色への関心」

伊藤 慎吾「1926年前後の柳田國男の物語・語り物研究」

大塚 英志「『偽史運動と民俗学』ノート Qアノンの時代にもう一度考える」

労働と身体の大衆文化論 戦時下・戦後の接続の試論として

（研究代表者 星野 幸代、大塚 英志）

〔共同研究者名〕

河西 秀哉、小川 翔太、朴 祥美、佐々木 浩雄、瀧下 彩子、陳 敏

〔海外共同研究員名〕

秦 剛、徐 瑋瑩、バラク・クシュナー、孫 旻喬

〈第1回研究会〉

2022年7月30日（オンライン開催）

星野 幸代「戦前戦後日本の少女文化におけるバレエ」

孫 旻喬「機械が『労働する身体』として語られる時—造形・ジェンダー役割・人間との関係」

河西 秀哉「労働者が歌うこと—厚生運動からうたごえ運動へ」

全体討論

司会：星野 幸代

〈第2回研究会〉

2022年9月2日（オンライン開催）

陳 敏「外地巡礼と満洲の働く少女」

秦 剛「戦時下の木蘭故事の舞台化—東宝国民劇『木蘭従軍』をめぐって」

バラク・クシュナー「Transwar propaganda and entertainment: imperial to post-imperial considerations」(英語)

徐 瑋瑩「跨越高雅與通俗文化的藩籬：冷戦下臺灣舞蹈的現代化與國族化（1950s-1960s）」(ハイカルチャーとサブカルチャーの垣根を越えて—冷戦下における台湾舞踊の現代化と国有化) (英語)

朴 祥美「戦後日本の文化政策と大衆芸能」(英語)

〈第3回研究会〉

2023年3月4日（オンライン開催）

(4)

佐々木 浩雄「帝国日本と集団体操——満洲への拡張」
小川 翔太「囚われ・越境する日本軍政下インドネシア POW Camp
宣伝映画——(脱)植民地化へ動員されたシネアストたち」
瀧下 彩子「“はれもの”にさわる子供たち——児童文化は新中国を
いかに消化したか」
全体討論
司会：星野 幸代

〈自然観と人間観〉

植民地帝国日本とグローバルな知の連環

(研究代表者 松田 利彦)

[共同研究者名]

劉 建輝、許 佩賢、駒込 武、高野 麻子、福士 由紀、石原 あえか、
石川 亮太、慎 蒼健、中生 勝美、李 昇燁、加藤 道也、やまだ あつ
し、通堂 あゆみ、米谷 匡史、加藤 茂生、香西 豊子、長沢 一恵、
周 雨霏、光平 有希、李 省展

[海外共同研究員名]

顔 杏如、朴 潤載、陳 姪媛、鄭 駿永、廖 欽彬、単 荷君、高 燕文

[研究発表]

(5)

〈第7回研究会〉

2022年6月19日(オンライン同時開催)

加藤 茂生「日清戦争後の中国・遼東半島における日本人地質学者
による調査について」

松田 利彦「軍医・佐藤恒丸と植民地朝鮮」

福士 由紀「帝国日本の食と栄養に関する研究に向けて——満洲移民
の食と栄養」

陳 姪媛「島から島へ——大田政作(1904～1999)がつなぐ離島ア
イデンティティと歴史記憶」

〈第8回研究会〉

2022年9月3日(オンライン同時開催)

通堂 あゆみ「京城帝国大学法文学部の再々検討——安倍能成日記を
手がかりに」

米谷 匡史「植民地と帝国の連関をめぐる学知——植民政策学・農業
経済学の場合」

〈第9回研究会〉

2022年12月11日（オンライン同時開催）

石川 亮太「朝鮮総督府水産試験場について」

愼 蒼健「『日本医学』の世界性について—橋田邦彦にとっての「他」」

加藤 道也「『植民地』官僚の統治認識—樺太と南洋」

石原 あえか「蛇毒と寄生虫 北島多一、高木友枝とその周辺」

許 佩賢「戦争末期植民地台湾の国民学校における勤労働員—士林国民学校の『学校日誌』を中心とした考察（1943-45）」

〈第10回研究会〉

2023年3月28日（オンライン同時開催）

香西 豊子「近代日本における衛星統計調査の射程」

光平 有希「近代日本にみる「治療教育」としての音楽—榊保三郎の音楽療法論を中心に」

駒込 武「林茂生における「帝国主義」と「植民地」—言説上の同盟-対抗関係に着目して」

周 雨霏「戦時期のアジア社会論と東アジア社会学者のネットワーク—森谷克己とその周辺を中心に」

(6) ソリッドな〈無常〉／フラジャイルな〈無常〉—古典の変相と未来観
(研究代表者 荒木 浩)

[共同研究者名]

榎本 渉、呉座 勇一、虞 雪健、石原 知明、上杉 幹、ヤーラ・エリオル・モリス、薮島 アグネセ、郭 佳寧、土田 耕督、河野 貴美子、橋本 雄、藤巻 和宏、山中 玲子、小山 聡子、木下 華子、佐藤 弘夫、高尾 祐太、辻 浩和、石井 公成、永井 久美子、児島 啓祐、田村 正彦、池上 保之、木場 貴俊、中川 真弓、アリレザー・レザーイ、ゴウランガ・チャラン・プラダン

[海外共同研究員名]

エドアルド・ジェルリーニ、張 龍妹、陸 晚霞

[研究発表]

〈第5回研究会〉

2022年5月7日（オンライン同時開催）

石井 公成「anityaと「無常」と「つねなし」」

特別書評討論会「ゴウランガ・チャラン・プラダン著『世界文学としての方丈記（日文研叢書）』（法蔵館、2022年）を読む」

報告者：ゴウランガ・チャラン・プラダン

対論者：増田 裕美子（ゲストスピーカー）

総合討議及び本プロジェクト今後の推進について

〈第6回研究会〉

2022年9月17日（所外開催 早稲田大学戸山キャンパス／オンライン同時開催）

「説話文学会9月例会シンポジウム「五大災厄のシンデミック——『方丈記』の時代」

モデレーター：荒木 浩

パネリスト：木下 華子「『方丈記』「都遷り」の生成と遷都をめぐる表現史」

児島 啓祐「慈円の災異論と台密修法——『愚管抄』の災厄記事を中心に」

ゴウランガ・チャラン・プラダン「海外の受容から窺う『方丈記』の五大災厄——英語圏における翻訳とアダプテーションを中心に」
ディスカッション

2022年9月18日（所外開催 早稲田大学戸山キャンパス／オンライン同時開催）

ヤーラ・エリオル・モリス「The Kinpusen Himitsuden: An Imagined Landscape at the Intersection of Religious Narratives and Imperial Liturgies」

(7)

総合討議及び本プロジェクト今後の推進について

〈第7回研究会〉

2022年11月26日（オンライン同時開催）

荒木 浩「ソリッドな〈草庵〉／フラジャイルな〈草庵〉」——維摩遺跡と長明方丈における文学遺跡構想の対比など」

永井 久美子「方丈・草庵・書斎——長明・兼好の肖像と近代文学」

総合討議及び本プロジェクト今後の推進について

2022年11月27日（オンライン同時開催）

辻 浩和「遊女の「儂さ」をめぐるって」

総合討議及び本プロジェクト今後の推進について

〈第8回研究会〉

2023年1月28日（オンライン同時開催）

眞 雪健「能「邯鄲」に表象される二つの無常」

薮島 アグネセ「Tea Ceremony and the Idea of Impermanence, with Focus

on Ceramic Tea Utensils (茶道具) and their Aesthetic Appreciation.]

総合討議及び本プロジェクト今後の推進について

2023年1月29日 (オンライン同時開催)

豊田 裕章「後鳥羽院の水無瀬殿の構造と古典文学に見えるその叙述について」

総合討議及び本プロジェクト今後の推進について

「かのように」という原理で形成してきた文通—「文書」概念や、その様式、記号、表象、意図性

(研究代表者 マルクス・リュッターマン)

[共同研究者名]

荒木 浩、榎本 渉、磯前 順一、金 泰虎、廣田 浩治、梶谷 真司、小島 道裕、森 洋久、小口 雅史、岡崎 敦、高橋 一樹、ウィッターン・クリスティアン

[海外共同研究員名]

ミハエル・キンスキー、イエルグ・クウェンサー

〈第11回研究会〉

2022年6月11日 (オンライン開催)

(8) 荒木 浩「中世の声の可視化と夢の可視化—フキダシと声の線追考」

〈第12回研究会〉

2022年10月15日 (オンライン開催)

森 洋久「空間から音を切り出すこと—サウンドスケープから視点を変える展示の試み」

〈第13回研究会〉

2023年1月28日 (オンライン同時開催)

榎本 渉「中世渡来僧の手紙」

まとめの討論

口と鼻—人体と外界の接合域の日本文化史

(研究代表者 磯田 道史)

[共同研究者名]

朝吹 真理子、伊藤 謙、住田 朋久、橋爪 伸子、東 昇、村山 聡

〈第1回研究会〉

2022年5月28日

住田 朋久「口と鼻を覆うもの—衛生的近代とハイパー近代」

村山 聡「口数（こうすう）の環境史試論—紛争・疫病・飢餓」

2022年5月29日

東昇「近世天草の口と鼻の媒体—伝言・疱瘡・献上」

橋爪 伸子「近世近代における食文化史の展開—菓子の情報と機能」

磯田 道史「安永7年7月2日夜の京都—口から濁水が入る時」

伊藤 謙「医療としての「アロマテラピー」の可能性を探る—吸入による芳香性生薬類の作用」

〈第2回研究会〉

2022年10月9日（オンライン同時開催）

村山 聡「丸亀藩地誌『西讃府志』（1839-1858年）が語る人流—近世日本の感染症を考えるために」

2022年10月10日（オンライン同時開催）

住田 朋久「『マスクの歴史』における中韓」

日本文化の地質学的特質

（研究代表者 鈴木 寿志、榎本 渉）

〔共同研究者名〕

倉本 一宏、原田 憲一、安間 了、王 秀梅、小林 奈央子、藤田 義孝、水野 友晴、狭川 真一、坂本 俊、田中 稔、武田 和哉、川村 教一、佐藤 亜聖、張 平星

(9)

〈第1回研究会〉

2022年5月21日（オンライン同時開催）

鈴木 寿志「日本文化の地質学」

原田 憲一「「災害文化」の観点から日本語の特徴を考える」

王 秀梅「万葉集に見える地質的要素」

総合討論

〈第2回研究会〉

2022年6月11日（オンライン同時開催）

武田 和哉「中国における石刻物の製作と展開—碑・墓誌を中心として」

狭川 真一「古代から近世における石造物の石材利用—大和とその周辺を中心に」

田中 稔「近世における墓標と墓地設備の石材利用」

佐藤 亜聖「日本中世の採石加工技術と海域アジア」

坂本 俊「日本中近世移行期の採石加工技術の様相と展開」

安間了「西アジア出土石材に関する分析とその手法」

総合討論

2022年6月12日（所外開催 京都市内の巡検）

西村大造（ゲストスピーカー）「白川石の産出地・性状・加工方法
と京都の石造物の文化」

高雄憲幸（ゲストスピーカー）「白川砂を用いた造園空間の意匠と
維持管理」

〈第3回研究会〉

2022年9月17日（所外開催 石見銀山世界遺産センター）

榎本渉「中世日本の鉱産資源と対外貿易」

仲野義文（ゲストスピーカー）「石見銀山の経営と技術」

中村唯史（ゲストスピーカー）「石見銀山の隆盛をもたらした銀鉱
石「福石」」

2022年9月18日（所外開催 石見銀山世界遺産センター）

石見銀山世界遺産センター 間野大丞氏（ゲストスピーカー）の
案内で見学

総合討論

〈第4回研究会〉

(10) 2022年11月13日（オンライン同時開催）

川村教一「近代の山岳霊場の地質学——香川県・大分県・兵庫県を
例として」

小林奈央子「死後魂は御山へ行く——木曾御嶽と霊神信仰」

吉川宗明（ゲストスピーカー）「代表的な事例からみる日本の岩石
信仰」

水野友晴「再考、鈴木大拙「大地」の思想——地質学との接点を求
めて」

藤田義孝「サン＝テグジュペリにおける地質学と地球観」

三浦誉史加（ゲストスピーカー）「英文学の自然観に見る『大陸』」

総合討論

〈第5回研究会〉

2023年3月4日（所外開催 大谷大学響流館／オンライン同時開催）

総括シンポジウム 科研費「変動隊の文化地質学」との共催

共同研究「日本文化の地質学的特質」成果報告

王秀梅「万葉集の地質観と日本語の災害観」

狭川真一「石材考古学の最前線」

張 平星「京都の石の文化」
榎本 渉「資源国日本」
水野 友晴「信仰・思想の地質観」
科研費「変動隊の文化地質学」成果報告
大友 幸子（ゲストスピーカー）「瀧山信仰の古道を地質巡検で
たどる—西蔵王と滝山火山の地形と地質」
高橋 直樹（ゲストスピーカー）「石碑に使用される石材—千
葉県を中心に」
鈴木 寿志「日本文化の地質学的特質」
コメント：倉本 一宏、西山 昭仁（ゲストスピーカー）

〈文化と権力〉

縮小社会の文化創造：個・ネットワーク・資本・制度の観点から

（研究代表者 山田 奨治）

〔共同研究者名〕

松田 利彦、田村 美由紀、太下 義之、佐野 真由子、谷川 建司、小
川 さやか、萩野 幸太郎、沢田 眉香子、服部 圭郎、服部 正、三脇
康生、山本 泰三、吉澤 弥生、吉村 和真、山下 典子、木村 智哉、
伊藤 遊、玉野井 麻利子

(11)

〈第13回研究会〉

2022年5月14日（所外開催 京都国際マンガミュージアム）

公開シンポジウム「縮小社会、文化はどうなる!？」

第1部「トルコからみた、縮む日本」

対談：市川 ラク（ゲストスピーカー）、吉村 和真

第2部「縮小社会展からのメッセージ」

パネル討論：服部 圭郎、服部 正、谷川 建司、山田 奨治、高橋
耕平（ゲストスピーカー）

コメンテーター：玉野井 麻利子

司会：伊藤 遊

2022年5月15日（オンライン同時開催）

玉野井 麻利子「縮小社会とジェンダー」

〈第14回研究会〉

2022年7月30日（オンライン同時開催）

論文集に執筆予定の論文・コラムについての意見交換

日本型教育の文明史的位相

(研究代表者 瀧井 一博)

[共同研究者名]

齊藤 紅葉、西田 彰一、根川 幸男、稲垣 恭子、竹内 里欧、齊藤 智、
ジェルミー・ラプリー、安藤 幸、井上 義和、椎名 健人、高山 敬
太、片山 杜秀、宇野 重規、柏木 敦、大澤 聡、大田 美佐子、阿川
尚之、足羽 與志子、磯山 麻衣、待鳥 聡史、瀬平 劉 アントン、大中
有信、平松 隆円

[海外共同研究員名]

荻谷 剛彦

<第7回研究会>

2022年7月2日 (オンライン同時開催)

「日本型」教育文化を問い直す—新たな人間形成論をめざして」
成果報告書原稿の検討会

2022年7月3日 (オンライン同時開催)

今後の研究会の計画について共同討議

<第8回研究会>

2022年11月26日 (オンライン同時開催)

(12)

柏木 敦「日本の「学齢」と「学年」—「日本型」教育を考えるために」
徳久 恭子 (ゲストスピーカー)「日本型教育システムの変容—分
権改革の帰結」

2022年11月27日 (オンライン同時開催)

今後の研究会の計画について共同討議

<第9回研究会>

2023年2月4日 (オンライン同時開催)

磯山 麻衣「日本の高等教育に対する冷戦期米国広報外交—米国型
学生支援の展開と受容に注目して」
蓑 豊 (ゲストスピーカー)「教育」という言葉？」

貴族とは何か、武士とは何か

(研究代表者 倉本 一宏)

[共同研究者名]

榎本 渉、伊東 貴之、磯田 道史、上野 勝之、龔 婷、久葉 智代、東
海林 亜矢子、豊田 裕章、青山 幹哉、石田 俊、大石 学、岡野 友彦、
刑部 芳則、川西 孝男、木下 聡、京楽 真帆子、重田 香澄、下向井

龍彦、関幸彦、高橋昌明、田中誠、佃美香、告井幸男、寺内浩、野口孝子、野口実、東島誠、樋口健太郎、カレル・フィアラ、服藤早苗、堀井佳代子、松田敬之、松永和浩、美川圭、森公章、滝澤修身

〔海外共同研究員名〕

宋浣範、梁曉弈、劉曉峰、張思捷

〈第9回研究会〉

2022年6月4日（オンライン同時開催）

京樂真帆子「新井白石の牛車研究」

大石学「江戸の京都取り込み」

劉曉峰「「文」の力 正倉院の宝物から見る古代中国文化伝統の特徴」

柿島綾子（ゲストスピーカー）「仁和寺御室守覚法親王の周辺」

〈第10回研究会〉

2022年7月9日（オンライン同時開催）

梁曉弈「唐末における文武と清流——白馬駅の変とその評価」

張思捷「平安末期郡司層の処遇とその「武士」化現象の深層をめぐる一考察——安芸国高田郡司藤原氏と伊賀国名張郡司丈部氏の比較を通して」

龔婷「平安京における新宅・移徙の儀」

川西孝男「蒲生氏郷と聖杯騎士伝説——天下泰平とヨーロッパ騎士道精神」

〈第11回研究会〉

2022年10月8日（オンライン同時開催）

宋浣範「高麗の「武臣政権」と日本の「武家政権」

榎本淳一（ゲストスピーカー）「武士と中国文化」

東島誠「源頼朝の将軍推任についての新考」

久葉智代「平安貴族と「ゐなか」

〈第12回研究会〉

2023年1月14日（オンライン同時開催）

下向井龍彦「王朝国家軍制の解体」

刑部芳則「麿香間祇候の役割——嵯峨実愛の動向を中心として」

榎本渉「渡来僧と建武政権」

伊東貴之「中国における文と武——門閥貴族、侠と武人、文人と士大夫・郷紳」

(13)

比較のなかの「東アジア」の「近世」—新しい世界史の認識と構想のため—

(研究代表者 伊東 貴之)

[共同研究者名]

磯田 道史、牛村 圭、フレデリック・クレインズ、瀧井 一博、松田 利彦、劉 建輝、マルクス・リュッターマン、豊田 裕章、青木 敦、浅見 洋二、新田 元規、石井 剛、宇佐美 文理、江藤 裕之、大久保 健晴、岡本 隆司、小倉 紀蔵、踊 共二、恩田 裕正、垣内 景子、上川 通夫、苅部 直、岸本 美緒、児島 恭子、小島 毅、佐々木 愛、佐野 真由子、澤井 啓一、周 圓、末木 文美士、杉山 清彦、関 智英、高橋 博巳、高柳 信夫、田口 由香、竹村民郎、陳 捷、土田 健次郎、陶 徳民、中 純夫、永富 青地、野村 玄、林 文孝、福谷 彬、ジョン・グリーン、前田 勉、松下 道信、松野 敏之、水口 拓寿、茂木 敏夫、山村 奨、横手 裕、李 曉東、渡邊 義浩、尾崎 順一郎、宮田 純、坪井 秀人、稲賀 繁美、志賀 祐紀、新井 菜穂子

[海外共同研究員名]

徐 興慶、趙 徳宇、宋 琦、権 純哲

<第3回研究会>

(14) 2022年7月30日 (オンライン同時開催)

渡邊 義浩「王者の兵と兵法の理念化—『荀子』議兵篇と『淮南子』兵略訓」

浅見 洋二「南宋・陸游における田園と国家—「耕織図詩」「勸農・諭俗文」を手がかりに」

2022年7月31日 (オンライン同時開催)

松野 敏之「江戸時代前期における『小学』受容の一例—『小学示蒙句解』を中心に」

佐々木 愛「ジェンダーからみる中国「近世」」

<第4回研究会>

2022年9月17日 (オンライン同時開催)

福谷 彬「道学者の皇帝説得術—朱熹の封事と陸九淵の輪対をめぐって」

新田 元規「明清交替期における孝実践・善挙および「奇人」伝—湯来賀とその時代」

<第5回研究会>

2022年11月19日 (オンライン同時開催)

垣内 景子「経学としての朱子学—経書注釈書の作品論」
土田 健次郎「王守仁の「万物一体の仁」はいかなる思想か」

〈第6回研究会〉

2023年1月21日（オンライン同時開催）

宋 琦「交錯する日本近世の「三教思想」—儒釈道から神儒仏への可能性」

宮田 純「本多利明の経済思想」

末木 文美士「近世日本の仏教思想—鳳潭僧濬を中心に」

〈第7回研究会〉

2023年3月18日（オンライン同時開催）

徐 興慶「人物と思想交流の文明史観論—朱舜水を中心に」

永富 青地「思想伝播のツールとしての出版—王陽明著作の出版から見えるもの」

2023年3月19日（オンライン同時開催）

李 曉東「中国の『政・治』思想を考える」

高橋 博巳「成大中小伝」

日文研所蔵井上哲次郎関係書簡の研究—国民国家の始発と終焉

（研究代表者 磯前 順一、荏田 真司）

(15)

〔共同研究者名〕

伊東 貴之、平野 克弥、村島 健司、小田 龍哉、大村 一真、関口 寛、
磯前 礼子、小倉 慈司、荻原 稔、久保田 浩、吉田 一彦、上村 静、
吉村 智博、須之内 震治、藤田 啓介、熊本 史雄、松金 直美、中川
勇士、富士 一馬、三輪 仁美、津田 敏之、ゴウランガ・チャラン・
プラダン

〔海外共同研究員名〕

馬 冰、全成坤

〈第4回研究会〉

2022年5月28日（オンライン開催）

「磯前論文以後の井上哲次郎研究」

報告：荏田 真司

コメント：磯前 順一、吉田 一彦

「島藺進・磯前順一編『井上哲次郎集』（クレス出版）について」

報告：磯前 順一、磯前 礼子

コメント：小倉 慈司

全体討論

司会：関口 寛

〈第5回研究会〉

2022年7月17日（オンライン開催）

「井上哲次郎研究の動向と統治／生政治論的アプローチ」

報告：関口 寛

コメント：荏田 真司、熊本 史雄

「所外開催予備報告 第一原発周辺、帰還困難地域を歩く」

報告：磯前 順一

コメント：平野 克弥、吉村 智博

司会：村島 健司

〈第6回研究会〉

2022年9月17日（所外開催 福島県）

フィールドワーク（とみおかアーカイブ・ミュージアム、東京電力
廃炉資料館）

2022年9月18日（所外開催 福島県）

里見 喜生（ゲストスピーカー）「福島原発と地域社会と国民国家」

フィールドワーク（浪江町立請戸小学校、原子力災害伝承館）

(16)

2022年9月19日（所外開催 古滝屋会議室／オンライン同時開催）

鼎談「福島原発問題から考える国民国家の始発と終点」

登壇者：磯前 順一、平野 克弥、里見 喜生（ゲストスピーカー）

〈第7回研究会〉

2022年12月17日（オンライン同時開催）

「福島フィールドワーク報告」

報告：松金 直美

司会：磯前 順一

特別合評会「上村 静・荏田 真司・関口 寛他編『差別の構造と国民国
家』（法蔵館、2021年）を読む」

趣旨説明：荏田 真司

発表：鏑木 政彦（ゲストスピーカー）、小田 龍哉、村島 健司

討論

司会：村島 健司

〈第8回研究会〉

2023年3月4日（オンライン同時開催）

「韓国における井上哲次郎研究と新しい井上哲次郎論の試み——同

情・共同体と普遍をどう見るか」

発表：全成坤

コメント：馬冰

特別合評会「井上哲次郎『国民道徳概論』（1912年）を読む」

趣旨説明・司会：荏田真司、関口寛

発表：上村静、大村一真

西洋における日本観の形成と展開

(研究代表者 フレデリック・クレインス)

[共同研究者名]

榎本 渉、井上 章一、瀧井 一博、磯田 道史、小川 仁、タイモン・スクリーチ、王 紫沁、ジョン・グリーン、松田 清、滝澤 修身、郭南燕、伊川 健二、スヴェトラナ・コルネーエヴァ、清水 有子、大場 はるか、アンドリュー・エリオット、蝶野 立彦、滝川 祐子、クレインス 桂子、小俣ラポー 日登美、稲賀 繁美、二村 淳子、白石 恵理、光平 有希、ゴウランガ・チャラン・プラダン

[海外共同研究員名]

イェルーン・ラーメルス、ロテム・コーネル、宋 琦

〈第3回研究会〉

(17)

2022年6月4日（オンライン同時開催）

白石 恵理「19世紀ヨーロッパにおけるアイヌ絵図の収集と出版——

The Ainos by David MacRitchie (1892) を中心に」

タイモン・スクリーチ「イギリス人が想像した日本——日本人初渡

英の1588年から英船初来日の1613年まで」

総合討論

〈第4回研究会〉

2022年8月27日（オンライン同時開催）

クレインス 桂子「平戸オランダ商館開設前後にオランダに伝わった日本情報」

蝶野 立彦「16～17世紀のヨーロッパにおける《日本観の形成》と

《教派对立》との関わりについての考察（ドイツ語圏を中心に）

——幾つかの論点の提示と史料紹介及び史料解釈」

総合討論

2022年8月28日（オンライン同時開催）

小川 仁「17世紀イタリアにおける日本観の変遷」

総合討論

〈第5回研究会〉

2022年10月29日（オンライン同時開催）

アンドリュー・エリオット「絵はがき・ホテル・外客——インバウンド観光によって形成された日本観（1870～1910）」

スヴェトラナ・コルネーエヴァ「16世紀後半の宣教師記録における日本人の死生観の描写」

滝川 祐子「18世紀末の英国資料が示す大黒屋光太夫情報と日本観」

2022年10月30日（オンライン同時開催）

伊川 健二「パンフレットと稿本にみる天正遣欧使節像の受容」

小俣ラポー 日登美「日本の殉教者のイメージ形成——十字架から炎へ」

〈第6回研究会〉

2023年2月25日（オンライン開催）

光平 有希「西洋大衆音楽作品にみる日本イメージの形成——20世紀初期シートミュージックに関する一考察」

ロテム・コーネル「劇的な視覚変容——19世紀初頭のヨーロッパ人による日本人の外見の描写」

(18)

総合討論

2023年2月26日（オンライン開催）

滝澤 修身「支倉使節団のイメージ再考と研究の進捗状況」

総合討論

◆基礎領域研究

英文日本歴史研究書講読（継続）

代表者 牛村 圭

概要 達意の英語で書かれた日本史研究書を素材に、英文を正しく読み、自然な日本語にする手法の修得を目指す。

中世文学講読（継続）

代表者 荒木 浩

概要 日本中世文学の文献を、影印を参照し、英訳などとも対比しながら精読するとともに、最新の研究動向などについての発表や情報交換の場としても活用する。